

(別紙1)

令和3年度関東東海北陸農業経営研究会春季研究会開催要領

農研機構 企画戦略本部 農業経営戦略部長
宮武 恭一

1. 趣 旨

内閣府の科学技術・イノベーション基本計画が掲げる Society 5.0 の実現に向けて、農業分野ではスマート農業の社会実装が推し進められている。農林水産省では、農林水産研究イノベーション戦略2020 を策定し、スマート農業を重点分野に掲げることで研究開発によるイノベーションの創出を推進する一方で、スマート農業実証プロジェクトによって営農現場での普及促進を図っている。

スマート農業は、当初、「ロボット・AI・IoT 等の先端技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を実現する新たな農業」(スマート農業実証プロジェクトより引用)と整理される。それを経営的視点から評価する場合、従来の技術評価の延長線上に位置づけて、スマート農業を構成する具体的な技術(スマート農業技術)を対象にし、その導入可能性も含めて経営全体の経営技術構造から評価してきた。その評価軸の主体は、費用対効果の視点から経営利潤の最大化にあった。しかし、スマート農業技術には、単純な経営利潤の最大化だけではとらえきれない効果も認識されている。例えば、作業の軽労化に代表される作業環境の改善や、熟練労働に近似する技能の実現などである。そのため、このような明示的に利潤に直結しない効果に対して、評価者(分析者)として求められる視点や手法の確立が求められている。

そこで本研究会では、スマート農業技術の実証試験研究における経営研究分野の取組を報告していただく。それらを素材に、スマート農業技術に対する経営的評価の現状と課題に関する情報共有を図りながら、評価軸や評価手法に関する今後の展開方向について検討することを目的とする。

2. 開催日時 令和3年7月13日(火)13時30分～16時30分

3. 開催場所 オンライン(Microsoft 社の Teams を利用)

4. 議 事

研究会

シンポジウムテーマ「スマート農業技術に対する経営的評価の現状と新展開(仮)」

座長 松本 浩一(農研機構)

1. 農業用ロボットが水稲単作大規模法人経営に及ぼす影響(仮)
－作業リスクおよびリスク選好を考慮した経営的評価－
馬場 研太 氏(農研機構 九州沖縄農業研究センター)
2. 東北大規模集落営農型法人におけるスマート農業による実証研究の成果と意義(仮)
笹原 和哉 氏・稲葉 修武 氏(農研機構 東北農業研究センター)
3. ミカン園における運搬補助ロボット実証試験の取り組みと導入効果の試算(仮)
山崎 成浩 氏(静岡県農林技術研究所)
4. 事例から考えるスマート農業実証プロジェクトにおける経営評価の現状と課題(仮)
福田 浩一 氏(日本農業サポート研究所)

総合討論

5. その他

個別報告会は本年度も中止します。ただし、論文投稿は、例年どおり募集します。

6. 連絡先

農研機構 中日本農業研究センター 転換畑研究領域 畑輪作システムグループ 担当:澤田守
茨城県つくば市観音台3-1-3 Tel: 029-838-8423 E-mail: KTH-KeieiBukai@ml.affrc.go.jp